

<ロールプレイ案（飲酒の誘いへの断りかた）>

【シチュエーション 1】先輩からの誘い

中学生 A（生徒） / 高校生（生徒） / 中学生 B（生徒）

中学生A: ああ、今日も部活がおわった。なんだかくたびれたなあ。
試験も済んだけど明日からまた塾にも行かなきゃなんないし、
なんか気晴らししたくなったなあ。 あ、先輩、こんちわ。

高校生: よう、●●(中学生Aの名前)。最近どうよ？

中学生A: ええ、なんとかやっています。先輩、なんか顔 赤くないスか？

高校生: おう。まあちょっとな。おまえは、なんかくたびれたっつう感じか？

中学生A: たいしたことないっす。でもなんか 気晴らししてスカッとしたっすよ。

高校生: じゃあな、ちょっとこっちへ来い（人目を避け、チューハイを取り出す）。
可愛い後輩のためだ。これ飲ましてやる。うまいぞ。

中学生A: えっ。これ、酒じゃないスか。

高校生: そうだよ。これくらい、たいしたことないぜ。
うまいし、気分がよくなるから時々やるんだけどな。
飲んだことないだろ？ じゃあ、わからんぜ。
ものは試しで、飲んでみな。
バテ気味のときにはオススメだぜ。

中学生A: でも、たしか 子供は飲んじゃマズいんじゃないんですか？
先生もウルサイし。

高校生: なにガキみたいなこと言ってんだよ。
もうおれらは親と体格が変わらないんだぜ。
このくらいはどうってことないのさ。まあ飲め。

中学生 B: (とおりがかり) ●●君、何してるの？ ちょっと文化祭のことで相談したいんだけど。邪魔？ (先輩を向いて) こんにちは。

あ、ちょっと！！ ●●君、それお酒じゃないのよ！ 何やってんのさ！

中学生A: いや、、、 ちょっとね。どんなかなあと思って。

中学生 B: なに言ってるの。ダメに決まってるじゃない！ 買ってきたの？

中学生A: いや・・・ あの・・・ちょっと先輩と・・・

中学生 B: (先輩をにらむ) あの・・・ ●●君にすすめたんなら やめてください！

高校生: そんな、おっかない顔すんなよ。このくらい、たいしたことないんだぜ。

中学生 B: だめです！！ 絶対ダメ！ まだ未成年者なんですよ？

高校生: ちょっとだけだって。 そんな酔っぱらうわけじゃああるまいし。

中学生 B: だめって言ったらダメです！！ 頭も悪くなるし、いいことなんか何も
ないんだから。 ちょっと、●●君もちゃんと自分で断りな！！

高校生: かたいコト 言うなあ・・・ ●●、ホントにいらないんだな？
可愛くない後輩だなあ・・・

中学生A: すんません・・・ (先輩 立ち去る)

中学生 B: そうじゃないでしょ！ ハッキリ ことわるの！
私がいなくても、ちゃんと自分でことわらなきゃだめだよ。自分のことなんだから。
まだ私たちは半分こどもなんだから、飲んじゃだめだよ。

中学生A: なんでだよ？ 病気になるわけじゃないぞ？

中学生 B: わかってないな。習ったでしょ？ まだ脳やカラダが出来上がってないんだから
大人と違ってお酒は毒なのよ。自分で自分を守らなきゃ。

中学生A: はいはい。まあ確かに ムリして飲むもんじゃないか。

【シチュエーション 2】 大人からの誘い 正月に親戚が集まった場

生徒A / 叔父(先生)

生徒A: やあ、おじさん。明けましておめでとうございます。

叔父 : おう、〇〇。おめでとう。 どうだい、学校は？

生徒A: うん。それなりにやってるよ。

叔父 : そういえば、お前も随分デカくなったなあ。オヤジよりも大きくなったか？

生徒A : もうちょっとかな。 おじさん、ごきげんだね。

叔父 : まあ正月だしな。 おう、お前も一人前みたいなもんだ。
ちょっと付き合いや (といってコップをすすめる)。

生徒A : いや、おれはいいよ。 いらない。

叔父 : なんだ。大丈夫だよ。 正月なんだし。
お前が大きくなって嬉しいんだよ。
おじさんたちの時代は、もうお前の年で少しは飲んだぞ。

生徒A : でも 今 飲まなくなつて大人になってからでいいよ。

叔父 : 水くさいなあ。 うまいぞ？ おまえのお父さんには言わないからさ。

生徒A : 本当にいらないよ。
友達に聞いたら、飲んで気持ち悪くなつたつて言つてたよ。
とにかく僕は飲まないって決めてるんだ。
大人になってからちゃんとお付き合いするからさ。
今から友達に会いに行くんだ。 じゃあね。